

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY



2024-25年度 RI 会長 / ステファニー・アーチック
RI.D2590ガバナー / 長戸はるみ
横浜旭RC会長 / 北澤 正浩

ガールスカウト
とクリーン作戦



第11回 チャリティーコンサート

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区万騎が原33 / 〒241-0836
TEL.080-1215-6668 / FAX.045-362-0024
<http://yokohamaasahirc.org>
Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川駅ジョイナステラス3 / 4Fコミュニティサロン
例会日 月3回水曜日 / 12時30分～1時30分

2024年10月9日 第2558回例会 VOL.56 No.11

■司会 SAA 関口 大樹

■開会点鐘 会長 北澤 正浩

■出席報告

会員数	20名	本日の出席数	12名
本日の出席率	68.42%	修正出席率	78.95%

■本日の欠席者

日向、中谷、二宮、佐藤（真）、関澤、宋、岡田

■オンライン出席 福村

■他クラブ出席者 新川(川崎とどろきRC・地区)

■ビジター

小塚 良雄様 (川崎百合丘 RC)

■会長報告 北澤 正浩

皆さん、こんにちは。先日の10月6日(日)に横浜市役所アトリウムで世界ポリオデーのイベントが開催されました。私も見に行かせていただきましたが、本当に多くの方々が集まり、大変な盛況ぶりでした。一輪車、チアリーディング、ダンスなど、いろいろなジャンルのチームが素晴らしい演技を披露していて、とても楽しい時間を過ごしました。準備や運営をされた新川会員、本当にお疲れ様でした。特に、娘さんの奮闘ぶりにも感激しました。

さて、ロータリーは1985年に「ポリオプラス」というプログラムを開始し、それ以来、ポ

リオ根絶を私たちの使命として掲げてきました。ポリオは、非常に感染力が強く、命に関わることもある病気ですが、予防接種によって防ぐことができます。ロータリーは世界保健機関(WHO)やユニセフと協力し、ワクチンの普及に全力を尽くし、世界中の子どもたちをポリオから守るために奮闘してきました。

当クラブでも、この重要な活動を支えるために、メンバーである新川さんがポリオプラス委員会の委員長を務めており、とても積極的に活動されています。新川さんは、国内外のロータリアンたちと連携し、ポリオ根絶に向けた様々な取り組みをリードしていただいております。

私たちが引き続き、この運動を支えていきたいと思っています。ポリオ根絶への道のりは決して簡単なものではありませんが、一步一步着実に前進しています。これからも皆さんと一緒に、この活動を成功させるために力を合わせていきたいです。

話は変わりますが、14日に二俣川銀座商店会でフォルテ祭開催されます。当クラブでも参加いたしますが、久々のクラブ活動ですので、大勢で盛り上げていかなければならないと思っています。是非とも皆様のご協力をお願いいた

します。

■情報集会報告

田川 富男

情報集会の発表を各グループリーダーの方々はお願いします。

▶ A グループ

岡田 隆 (リーダー)、新川 尚 (サブリーダー)

草柳孝弘、宋 謹衣、中谷逸希、福村 正

開催日 / 9月20日(金) 19時から21時

開催場所 / 二俣川「菜々や」

出席者 / 新川・福村・中谷・岡田会員

欠席者 / 宋・草柳会員

情報集テーマ中心に意見交換させていただきましたので、下記の通り報告いたします。

(欠席の会員さまにはメールにてご意見を伺う形を取りました。)

①皆がより楽しめる例会のアイデア

夜間例会の曜日を水曜以外にして欲しい金曜など

②地域参加型奉仕活動について

情報の窓口化が必要 事務局の設置

継続的な復興の支援

地域 NPO 法人への支援 (募金)

③ 会費について

会費の種類選択有りにしては (寄付金込みか否か選択できる)

会費を下げる 食事はオプション扱い

以上、発言いただいた内容を集約しただけの報告になりますが、情報集会自体は大変良い雰囲気意見交換させていただきました。

▶ B グループ

関口大樹 (リーダー)、安藤公一 (サブリーダー)

五十嵐正、増田嘉一郎、二宮麻理子、日向 彰

9月11日に横浜モアーズの権之介にて実施した。メンバーは7名(五十嵐、増田、安藤、二宮、日向、北澤)。

①会員増強について

新しく会員を増やす確実な方法は無い為、今後も若手会員を中心に体験例会への招待を積極的に行う。

②財団・米山寄付金について

寄付金を会費に含めるかどうかについて、多数決の結果、「賛成6、反対1」となった。

▶ C グループ

佐藤 勉 (リーダー)、佐藤真吾 (サブリーダー)

目黒恵一、佐藤利明、田川富男、関澤信吾

北澤会長・市川幹事の2名はフリー参加

C グループ報告 / 佐藤 勉

発表に先立ち、Cグループにおきましては、お忙しい中全員が参加していただき、活発な発言をいただきました。とても活発な集会になったことを自慢し、グループの皆様感謝するとともに場所を提供していただいた目黒会員にもお礼を申し上げます。

また、CグループというCといますと学校の成績では落第点ではありますが、落第点ではない素晴らしい意見交換が出来ました、監視? 監督? に来ていただいた北澤会長・市川幹事にも併せて御礼申し上げます。

それでは発表させていただきます。

情報集会のテーマに沿って、

①皆がより楽しめる例会のアイデアについて

楽しめる例会とは、とその前に以前というか昔の例会はというと、

- 30分前に例会場にきて、皆と雑談をし、交流を図っていた。

- 3回欠席で退会

- 卓話を聞く態度について、眠らず・携帯電話をいじらず、他者と話さずと暗黙の規律があり、注意する諸先輩方も大勢いた。

など現在の例会とはかけ離れた内容だが、昔話として聞いてほしいとのことだったが、現在の例会にも行えることはあるかとの話の中で、卓話については、卓話者に敬意を払う意味でも寝ない・携帯電話の使用は、緊急以外は触らない、ぐらいい行ってもよいのではないかとの意見が出ました。

発表がそれてしまい申し訳ありませんでした。

①皆がより楽しめる例会のアイデアについて

1) 新しく入会した会員に対し、ロータリーとは何なのか？ SAA とは？ エレクトとは？ スマイルレポートとは？ なぜ国歌を歌うのか？ など様々な疑問について説明と理解させる場の充実が必要ではないのか、判らないまま例会に参加し、最初のうちは参加しているが、のちに不参加になってしまう原因の1つではないか。

2) 前記に帰する内容ですが、以前使っていたタスキを使用し、該当者はタスキを掛ける。

3) 卓話を充実していく。特に外部の卓話を増やすための活動を現在のどこかの委員長に兼任していただき、委員長の号令や指示のもと卓話者を増やしていく。

4) 例会の出席者が少ない場合、卓話の時だけでも会長・幹事には一般の席に移動・着席していただき卓話を聞くというのはどうだろうか？

②地域参加型奉仕活動

「災害時の食をテーマにした旭区の地域ボランティアの組織設立案」とは、地区の中で決定したもので、単年ではなく、3年という期間での大きなテーマに目標と説明・理解しているが、プロジェクトチームの発足のもと今年度内に提案書の草案が出来上がってからでないと現実感がわかないとの意見と共に、旭ロータリーだけではかなりハードルが高い最終目標とグループ皆認識している。イタリア防災の公開講座の開催が決まっているが、旭区役所や横浜市役所の災害対策課などにアプローチをかけ講演や実態説明の場を設け居ていきながら広く情報収集を行うことが必要ではないかと意見がでた。

3か年計画というのが、今回初めてのことなのか、何年に1回行われている計画なのか不明だが、計画策定・実現・継続に協力してこうとの意見で一致した。

③会費について

なぜか全員の意見がそろった内容でした。「財団や米山などの寄付金」は会費から捻出していきたい。

今回のテーマとはかけ離れていて恐縮です

が、クラブの決定事項について理事会を開催しているが、その内容が見えてこない、報告もよくわからない。やはり「みんなに公平か？」が理念の1つとして掲げているのなら下っ端にもわかりやすい場にしていただきたいです、でないと紹介する際も意味が分からん人間が紹介も出来ません。

■ニコニコBOX

小塚 良雄様(川崎百合丘RC) / 本日は桐光学園の防災について、卓話するよう声を掛けて頂き喜んで来会することにしました。RCの共通課題として共に取り組んでいきましょう。

北澤 正浩 / 川崎百合丘RC小塚良雄様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。

市川 慎二 / 桐光学園理事長小塚様、本日は卓話よろしくお願ひします。今度は是非幼児教育についてもお話をさせてください。

目黒 恵一 / ①佐藤勉グループ情報集会ご苦勞様でした。発表宜しくお願ひ致します。②川崎百合丘小塚良雄様卓話宜しくお願ひ致します。

佐藤 勉 / ①川崎百合丘RC小塚様、本日の卓話よろしくお願ひします。②先日の情報集会の皆様の出席ありがとうございました。

新川 尚 / ①川崎百合丘RC小塚様、本日の卓話よろしくお願ひします。②世界ポリオデーご協力ありがとうございました。

安藤 公一 / ①小塚様ようこそ、本日の卓話宜しくお願ひ致します。②新川さんポリオデーお疲れ様でした。

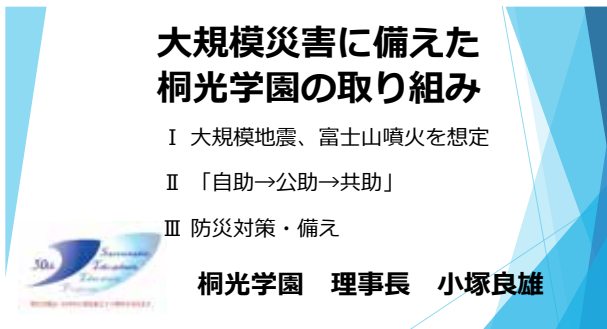
五十嵐 正 / 川崎百合丘の小塚様、本日の卓話楽しみにしておりました。よろしくお願ひいたします。

関口 大樹 / 川崎百合丘の小塚様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。

田川 富男 / 各リーダーさん情報集会の取りまとめご苦勞様でした。次回は来年にて2回目を考えています。また、新しいリーダーは宜しくお願ひします。

■卓話／大規模災害に備えた桐光学園の取り組み

桐光学園理事長 小塚 良雄様 (川崎百合丘 RC)



I 大規模地震、富士山噴火を想定

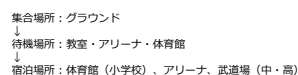
—東日本大震災の経験から(2011 3.11 14:46)—

1、東日本大震災以前の取り組み

- ・病院 (OP、ICU、CCU等) の非常用発電
- ・水 → 井戸 (グラウンド散水)、中水
- ・備蓄 乾パン、毛布、ロールマット…程度

2、当日の体験から学んだこと

イ グラウンドに全生徒集合 → 安否確認 → 必須



ロ 緊急対策本部を設置 → 状況整理 → 必須

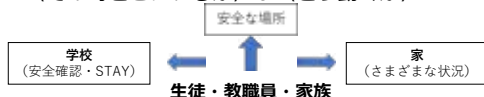
ハ 生徒・児童・教職員の動向

徒歩帰宅、迎えの車で帰宅、学校に宿泊
 宿泊者：生徒 中高400/3,000 小30/450 幼0/400
 教職員 中高150/250 小20/30 幼10/30

二 都市機能の停止

- ・情報系：安否確認、伝達、記録集計
- ・交通：公共交通機関停止、個人移動手段の混乱
 帰宅ラッシュの混乱、送迎ラッシュ
- ・インフラ：電気・水・エネルギー源
- ・暖房(冷房)対策：可能性
- ・防災教育：防災理論の未整備
- ・備蓄：保管、質、量、消費期限、費用など
 スーパー、コンビニ、商店、農協など

ホ 〈その時どこにいるか〉 & 〈どう動くか〉



3、更なる体制の充実

- イ 帰宅のあり方 (大規模災害にあつて)
 - ・学校一家の状況が確認できないのであるならば無理に帰宅をせず、校内にとどまる必要がある
 →校内居住ができる形を備える必要がある
- ロ 備蓄のあり方
 - ・施設 一スタンド下から防災備蓄棟の建設へ
 - ・設備 一インフラ混乱に備えた設備の拡充
 - ・備蓄品の検討 一物・量・消費期限
 購入・使用or処分



ハ 共助に向けて

- ・川崎市と防災協定を締結(2011 4.1、1年かけて川崎市と検討)
 一初期避難場所として本校施設の一部を提供、備蓄品の相互利用
- ・麻生区、栗木町内会防災訓練 (インターアクトクラブ他有志)

二 情報系の拡充

- ・状況は大きな変化の中にある → 安定感・実態の見極め
- ・携帯電話 → 普及率100%?
- ・wi-fi → コロナ禍の中で設置完了
- ・安否確認の手段としてどこまで機能できるか
- ・その時の電波環境 混乱→復旧→安定へ

II 自助 → 公助 → 共助

一大規模災害発生当日の対応一

- 1 「自助」のみで完結させなければならない
- 2 生徒は学園内で生活できる環境を確保する必要がある
 一時間・場所・移動・食事・防寒(冷房)・排泄など
- 3 順次、公助・共助に繋げていく
 一中高生ボランティアの可能性一
 一初期→中期→後期→平常時一
 ※ 公助の限界、生徒の共助の可能性
 →発生当初より3日間、できれば発生から7日間!!

III 防災対策・備え

1.大規模災害対応規定と日常の防災教育

イ 日常の備え

災害に関する知識を持つ、情報を集める
 災害を想定した訓練・登下校時の被災を想定した訓

ロ 被災時の心得

在校時、登下校時、在宅時のそれぞれの環境に適し
 学ぶ

ハ 自然災害等による休校措置の設定

2、防災訓練

- イ) 1次避難・安否確認・リスト作成
- ロ) 保護者に安全確認連絡・情報伝達確認・不可の場合に備えて!!
- ハ) 行動確認、2次避難、帰宅確認



大規模災害対応規定と日常の防災教育

広域災害に備えて（防災のポイント）

福光学園中学高等学校

【はじめに】

『天災は忘れたことにやってくる』という格言があります。私たちは、天災（地震・台風・竜巻など）、人災（火災・停電・テロなど）に日常生活のいつどこで災害に遭遇するかわかりません。そして私たちが災害に対してできることは、事前に出来るだけのことを想定し、それに対しての準備をしておくことです。

【日常の備え】

- ① 災害に就する知識を持つ。
書籍やマスコミなどを利用して、災害の特徴や教訓を学ぶように心がける。
- ② 災害に関する情報を集める。
台風や異常気象などは、ある程度事前に情報を得ることが出来るので、正確な情報を迅速に得ることを心がける。ただしアラなどには注意が必要。
- ③ 被災を想定した訓練（イメージトレーニング）を通じて対応を身につける。
毎年全校で実施する避難訓練を通して、避難の手順や経路などを確認する。これ以外にも学校などで実施する消火器の使用法や救急法の講習会などにも積極的に参加する。
- ④ 学校や登下校時の被災を想定した準備をする。
帰宅困難な状況になった時を考慮して、家庭で合流場所（教員が望ましい）や連絡方法を事前に決めておく。

【被災時の心得（避難方法）】

- A 在校時
 - ① 地震などは頭部を守って、身を伏せて机の下などに入る。それ以外の場合も、まず自身の安全を確保する。
 - ② 避難経路を確保するため、ドア付近の生花は戸を倒れる。
 - ③ 授業中ならば、担当の先生の指示に従い、休み時間や放課後などは、放送があればその指示に従う。指示のない時は、避難訓練の順序に従う。
 - ④ 自然と避難場所（サッカー場・メイニングラウンド）へ避難をする。「動いどさない・走らない・騒がない。安全かつ迅速に行動するため、靴を履き、ポケットに手を入れない。
 - ⑤ 避難場所（サッカー場・メイニングラウンド）に到着したら、整列をし、生活安全委員会が人員確認をして、担任の先生に報告する。避難後は単独行動を絶対しない。

B 登下校時

- ① 通学路（学校→乗降駅）で被災した時は、学校を避難場所とする。
- ② 駅や電車内など公共の場にいる時は、駅員さんの指示に従う。安全第一を心がけ、慎重に判断し、行動する。
- ③ 家庭、家族と連絡をとり、安全な避難方法を判断する。うまく連絡が取れない場合は、学校に相談をしておくわない。

C 在宅時

- ① 安全が確認され、登校が可能になるまでは自宅で待機し、無理に登校をしない。
- ② 学校は、各生徒の安全確認と連絡方法の確立に努めるので、できる限り協力をする。
- ③ 自宅待機期間は、事故次第（遅刻）扱いとし、欠席日数には算入しない。

【自然災害等による休校措置】

- ① 台風や大雪などにより、大規模な交通障害が発生、もしくは発生が予測される場合は、休校措置（始業時間の繰り下げ、授業時間の繰り上げを含む）をすることがある。
- ② 休校措置は、決定したい緊急メール連絡網、学校ホームページで情報発信をする。
- ③ 休校措置でない場合でも、登校の安全が確保できない場合は無理をせず、安全第一で登校する。

